

落下の恐怖いつまで

F15 中部住民募る不安

【中部】米軍嘉手納基地所属のF15戦闘機が4日、風防ガラスを海上に落下させた。同基地周辺や戦闘機の飛行ルート下で爆音の被害に苦しむ住民は、繰り返し返されるトラブルに怒りの声を上げ、平穏な暮らしを返してほしいと訴えた。(一面参照)

風防ガラス 操縦席の上にある透明のガラス。強化アクリル製で厚みは約3センチとされる。F15戦闘機は固定部分と可動部分に分かれ、操縦士が緊急脱出する際に可動部分が外れた後、座席が飛び出す仕組みになっている。機種によっては固定部と可動部が一体化しているものや、緊急脱出時に風防ガラスにひびが入り、ガラスが外れないまま座席が飛び出すものもある。

第3次嘉手納爆音差し止め訴訟原告団の平良真知事務局長は「これで4回目だ。いつか民間地に機体まで落ちるのではないかと。命が危

険にさらされている」と不安を募らせる。F15は昨年5月、国頭沖に墜落。2日前には同基地にオスプレイが緊急着陸し

たばかり。「F15だけでなく、FA18やハリアーなどの外来機もたくさんトラブルを起こしており限界だ。いつまで危険を背負わなければならないのか」と、度重なるトラブルに憤った。

同基地を離陸後の戦闘機の飛行ルート下にある、うるま市石川美原区。仲宗根洋子自治会長は「住民は、この地に誇りを持って住ん

でいる。戦闘機さえ飛ばなければ素晴らしい場所なのに、戦闘機のせいで住民は苦しんでいる」とため息をもらす。

私たちは耐え忍ぶしかないのか」と不安を訴えた。

以降に限っても毎年のように起きており、米軍の安全管理に疑問符がつく。

落下物の種類も、燃料補助タンクや模擬弾など機体に付属している物から、搭乗した隊員の水筒まで多岐にわたる。

1979年の嘉手納基地への配備以降、F15戦闘機からの部品落下は今回を含めて13件。風防ガラスは4回に上る。83年と97年は嘉手納基地内に、2002年は沖縄本島南東海上にそれぞれ落下させた。

墜落や不時着、爆弾誤投下を含めた米軍機関連の事故は12年末までに540件起きていた。発生するたびに関係自治体や議会が抗議し再発防止を求めているが、米側の対応策に実効性が伴っていないのが実情だ。



風防が海に落下し、緊急着陸したF15戦闘機を取り囲む米軍関係者ら＝4日午前、米空軍嘉手納基地

2000年以降の米軍機による主な落下事故

2001年	6月13日	普天間飛行場所属のCH53ヘリが宜野湾市内の住宅隣にバグ
02年	4月8日	嘉手納基地所属のF15戦闘機が同基地内で訓練用照明弾
	17日	普天間飛行場所属のCH53ヘリが滑走路に燃料補助タンク2個
	24日	嘉手納基地所属のF15戦闘機が沖縄南東海上に風防ガラス
03年	1月18日	普天間飛行場内に在沖米海軍P3Cの墜落位置通報装置
	8月13日	嘉手納基地滑走路に同基地所属F15の訓練用照明弾
04年	6月15日	北谷町美浜の民家庭に米海兵隊所属FA18戦闘攻撃機の金属製落下物
	12月21日	沖縄本島北東海上に嘉手納基地所属F15の補助翼下端部分
05年	11月1日	沖縄本島北西海上に嘉手納基地所属F15の水平尾翼前方部分
06年	3月30日	嘉手納基地上空で同基地所属F15が訓練用照明弾を誤射
	8月25日	嘉手納基地で同基地所属F15が陸軍貯油施設に訓練用照明弾
08年	4月9日	海兵隊所属ハリアー攻撃機が鳥島射撃場で爆弾2発誤投下
10年	4月7日	嘉手納基地所属のF15戦闘機がホテル・ホテル訓練区域に模擬ミサイルの安定板
11年	3月30日	岩国基地所属のハリアー戦闘機が嘉手納弾薬庫地区上空で訓練用照明弾を誤投下
12年	5月10日	嘉手納基地を離陸したAV8Bハリアーが訓練中に金属製パネル
	6月13日	嘉手納基地所属のF15が訓練中に衝突防止灯レンズ
	9月3日	海兵隊が渡名喜村で模擬爆弾を落下
13年	2月5日	普天間飛行場所属のオスプレイが基地外で水筒
	4月2日	普天間飛行場所属のAH1攻撃ヘリが燃料タンクのキャップを紛失
	10月29日	嘉手納基地所属のHH60ヘリが本島北部の訓練場に向かう途中でカメラ1台
14年	3月4日	嘉手納基地所属のF15が本島北西128キロの海上で風防ガラス

定期点検 不備か

青木謙知氏（航空評論家）

航空評論家の青木謙知氏は、米軍F15戦闘機からの風防ガラス落下の原因について「機体との留め金部分が緩んでいたか、壊れた可能性がある」と述べた。米軍パイロットは緊急時の対処法を訓練しており、風防ガラスが外れた場合でも「操縦は可能」とし、例えるなら乗用車で窓を開けたまま高速道路を走るようなものと説明した。

日々の訓練飛行前の点検では留め金まで見ないとし「細かい所は定期整備で調べる。そこできちんと調べれば訓練中の落下は防げるのではないかと述べ、定期整備の不備の可能性を考えた。

指摘。事故機が所属する第18航空団が一斉点検を行うだろうとの見通しも示した。

入念な整備・点検によって「トラブルの可能性を減らすことは可能だが、ゼロにはならない」と述べつつ「一定のトラブルの危険性は避けられない」とした。

一方、米軍の姿勢について「平均的な事故発生率であれば許容範囲とみて、余計な労力を使わず、それ以上の事故防止にコストをかけない」と指摘。「自衛隊は完璧主義で事故ゼロを目指しコストをかける。日本の文化、考え方の違いだ」と述べた。

F15風防ガラス 過去に3回落下

県によると、本土復帰から2012年末までに米軍機からの部品落下は43件（固定翼31件、ヘリ12件）発生している。2000年

1979年の嘉手納基地への配備以降、F15戦闘機からの部品落下は今回を含めて13件。風防ガラスは4回に上る。83年と97年は嘉手納基地内に、2002年は沖縄本島南東海上にそれぞれ落下させた。

墜落や不時着、爆弾誤投下を含めた米軍機関連の事故は12年末までに540件起きていた。発生するたびに関係自治体や議会が抗議し再発防止を求めているが、米側の対応策に実効性が伴っていないのが実情だ。